



NO. 170

響

(ひびき)

発行 チャイルドラインハートコール・えひめ
〒790-0808 松山市若草町 8-2
松山市ボランティアセンター気付
Tel 089-923-9558 Fax 089-916-9710
E-mail heart-call@kke.biglobe.ne.jp
<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~heart-call/>
発行責任者 染川 まどか
発行者 染川 まどか
編集者 三好 久恵

2021年度総会報告

今年の総会も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染予防のため、残念ながら開催することができませんでした。

事前に総会資料・書面評決状・委任状を送付し、総会開催としました。

正会員 38名のうち、書面評決 22名、委任状 8名で定足数を満たし総会は成立しました。

第1号議案 2020年度事業報告

第2号議案 2020年度収支決算報告

第3号議案 2021年度事業計画案

第4号議案 2021年度収支予算案

第5号議案 2021年度正会員会費の減額案

第6号議案 2021年度役員改選案

すべて承認されました。

◇2021年度事業計画

- ・傾聴による子ども電話開設
- ・カード配布 愛媛県内小、中学校に配布 年1回
- ・社会啓発活動
- ・機関紙「響」発行 年4回
- ・全国、中四国のチャイルドラインと交流、ネットワーク活動
- ・他機関との交流、ネットワーク活動
- ・第21期受け手養成講座 開催できる環境で開催
- ・継続研修 開催できる環境で開催
- ・支え手研修 開催できる環境で開催
- ・運営委員定例会 開催できる環境で開催
- ・祝休日電話相談事業
- ・「イオンの幸せの黄色いレシートキャンペーン」 開催の知らせがありましたら参加
- ・「福祉センターまつり」 開催の知らせがありましたら参加
- ・応援団員を募る



今年もまた会員の皆様と会えないままの総会となりました。

今年度は状況を見ながらできるだけ、受け手養成講座・継続研修・支え手研修・運営委員会は開催していきたいと思っています。

子どもたちの声を聴くというこの活動を大切に、また受け手支え手スタッフの安全も大切に、身を引き締めていきます。

いつかきっといつもの日常に戻れると前向きな気持ちも忘れずに奮闘していきますので、どうぞ今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

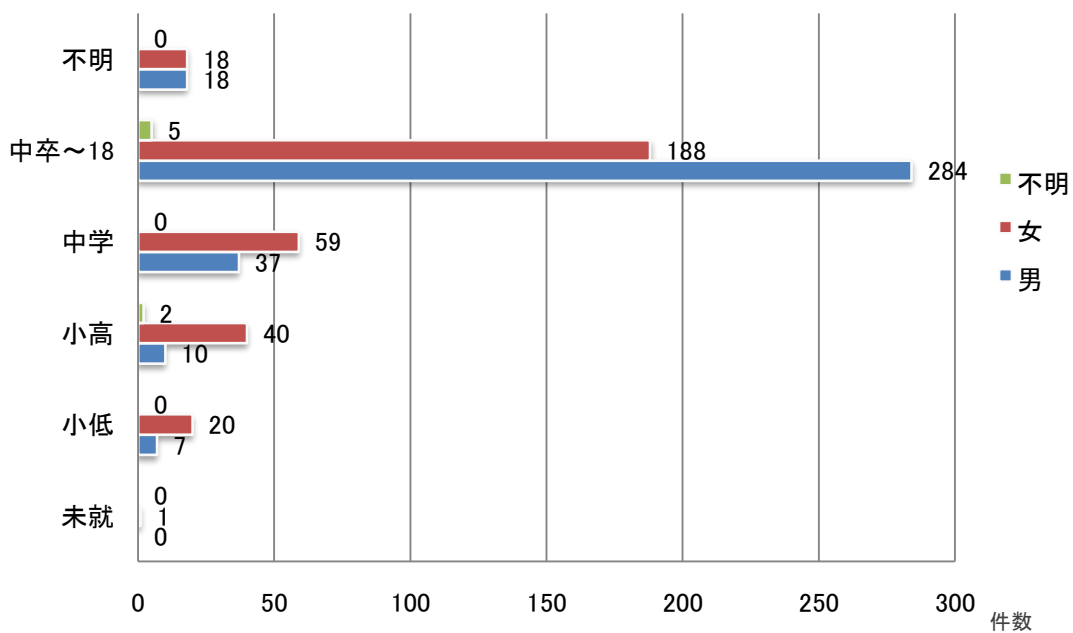
チャイルドライン&子ども電話「ひびき」 1年間の統計 (2020.4.1~2021.3.31)

電話概要

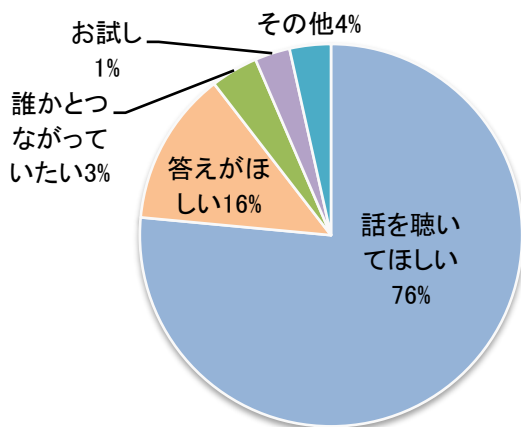
【総着信数】 2,373件
 【会話成立数】 724件
 【開設日数】 63日
 【19年間の総合計】 47,222件(2002年3月~)



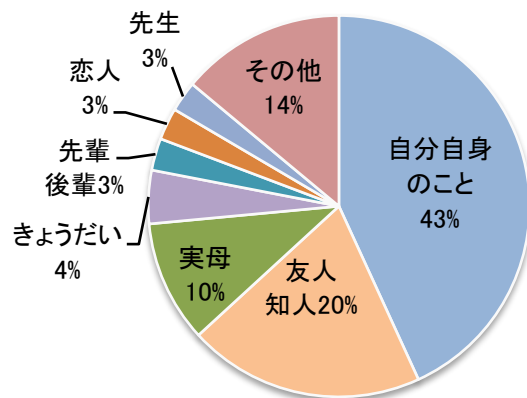
【男女年齢別会話成立数】



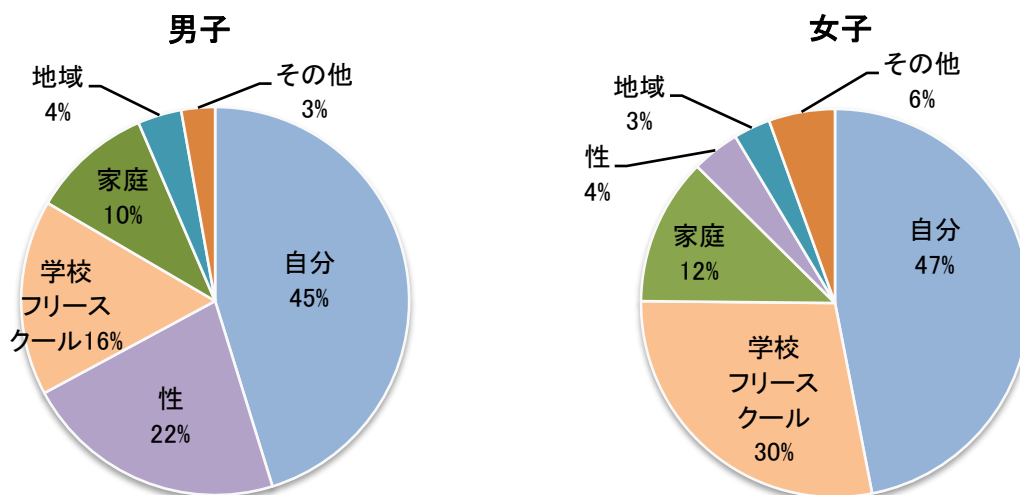
【電話をかけてきた動機】



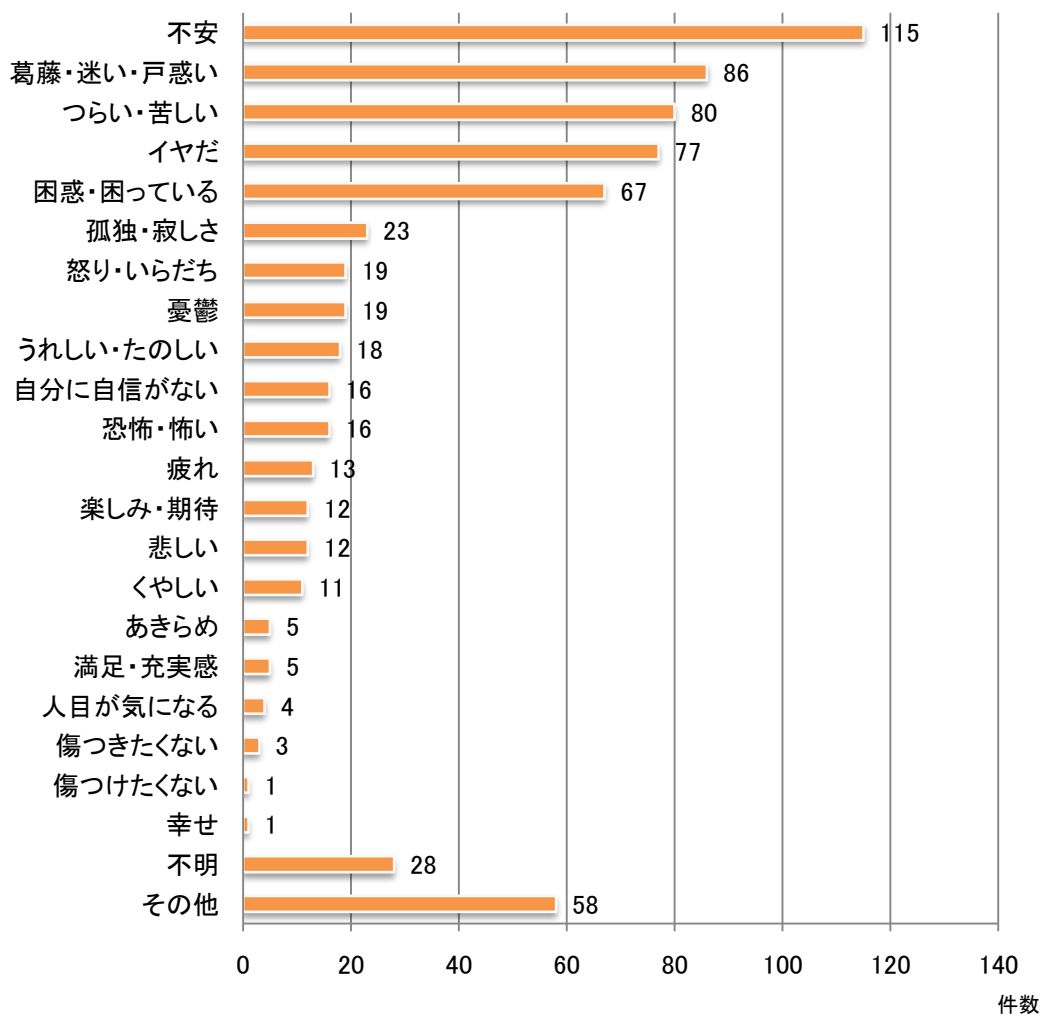
【誰との関係で】



【電話内容】



【かけてきた子どもの気持ち】



国際ソロプチミスト松山様より 引き続きのご寄付

5月17日国際ソロプチミスト松山様より引き続きのご寄付をいただきました。カード作成の一部に使わせていただきます。感謝申し上げます。



ご支援ありがとうございます

2020年度1年間でご寄付くださった方、国際ソロプチミスト松山様、高下道子様、松尾達子様、杉山洋様、松尾和子様、井上照代様、佐伯典合子様、応援団会員 藤原慎也様、

ありがとうございます、大切にに使わせていただきます。



ハートコール・えひめの20年 パート2

2002年3月いよいよ電話の開設です。開設日は5のつく日で月3回、時間は午後4時から午後10時まで、開設場所は、お知り合いのお寺でした。広いお寺の奥の物置を少し改修し電話を設置しました。

(まだ寒かったので誰かがこたつをもって来て待機中はぬくぬくでした。時々猫が迷い込んで来たり、大きな蜘蛛が垂れ下がり大騒動になったり、夜はお墓のそばで頭を下げながら恐々自転車でピュー)

2002年3月・5月・7月・9・12月には1週間連続キャンペーン開設をなんと受け手10~12人でした。しかもキャンペーンごとに、カード・チラシ・ポスターを県内小・中・高校に配布、そのうえJR駅・コンビニ・塾・ゲームセンター・本屋などにも配布しました。(一体どうやっていたのやら、あきれ返るわ、信じられないわ、思い出せません)

3年目には受け手も23人と増え、開設日を5と0のつく日月6回に増やし、告知のため年3回カード・ポスターを配布。(そのためにどれだけ助成金申請をしたことか、恐るべしです)講演会も年1回は開催していました。少しずつ電話の着信数も増え、年間2,000件を超えるようになりました。

ひたすら子どもの声に耳を傾け、受け入れて共感するということがなかなか難しく苦悩の日々でした。失敗も間違いもたくさん繰り返し、なぜ自分の中に落ちないのか自分を問いただすことだらけでした。結局、少しずつ少しずつ体の中に芯が通るように、揺らがないものを教えてくれたのは子どもたちです。

(本当は時々揺れます、でも元に戻れている気がします)

そして、かかってきた子どもたちの声に背中を押されるように、松山市の子ども育成条例や、愛媛県子育て支援課担当の養護施設退所後の子どもたちの居場所について疑問を感じるようになりました。(行政の建物に入ると人格と顔が変貌すると言われたのもこの頃です)

突進していったのは仲間たちがいたから、あきらめてしぶしぶ応援してくれた家族がいたからです。(若かったのもあるかも)

苦しいこともつらいこともあった気もしますが、嬉しいことや楽しいことしか思い出せません。こんな呑気な波乱万丈はまだまだ続きます。次回もどうぞ読んでください。

編 集 後 記



「ハートコール・えひめの20年」を書きながらいろんなことを感じます。子どもたちのためと言いながら、決して子どものためではなく自分自身のためであったと思います。普段の生活では見えないもの聞こえないものを知らされました。子どもたちから突き付けられた課題をこの20年、自分は果たしてきたでしょうか。自惚れと自己満足に陥らないように、もう少し子どもから教わろうと思います。(染)